

獣害の現状や対策学ぶ



グラウンドで獣害対策の柵の設置を体験する高校生ら。柵の下部はワイヤメッシュ、上部に通電する線を張る。丹波篠山市畑宮

「実践塾」に高校生や市民ら12人

サルの防護柵作り体験

丹波篠山

丹波篠山市などが「みたけ会館」（同市瀬利）で開催する本年度の「獣がい対策実践塾」が、ニホンサルによる被害の多い畑地区にある

少子高齢化で、地域の獣害対策の担い手は減少している。都市部の住民や非農家、学生ら獣害と直接関わりがない人たちにも学んでもらおうと、2018年度から開いている。

2025年6月30日
神戸新聞

初回は、
・兵庫
県立大学教授とNPO法人
・里地里山問題研究所の

代表理事が獣害の現状や対策などを講義した。続く実習では、隣接する旧畑小学校グラウンドで、サル用の電気柵の設置作業を体験した。

作ったのは、サルの学習能力の高さを利用した通電支柱とワイヤメッシュを組み合わせた防護柵で、地面にくいを打ち込み、柵で囲い、電気が流れる線を張っていた。篠山東雲高2年のさん(16)は講義内容について、「オオカミの尿などを使った薬剤が野生動物よけに意味がないと聞いて意外だった」などと話していた。

今後の講座ではわな猟の見学などもある。市森づくり課 ☎079・552・1